

2020年度新収蔵資料の紹介

—山田秀三氏旧蔵アイヌ民具資料ほか—

亀丸由紀子・大坂 拓

目次 はじめに

- 1 山本尚己氏寄贈資料
- 2 大谷洋一氏寄贈資料
- 3 津田命子氏寄贈資料
- 4 河口知明氏寄贈資料
- 5 山田秀三氏旧蔵資料
- 6 佐藤華江子氏寄贈資料

Key Words アイヌ民族 (Ainu)、工芸品 (Folkcraft)、刺繍 (Embroidery)、山田秀三 (YAMADA Hidezo)、積丹 (Shakotan)

はじめに

本稿では、北海道博物館アイヌ民族文化研究センターが2019（令和元）年度末から2020（令和2）年11月末日までに寄贈を受けた民具資料5件18点のほか、館内所在の未登録民具資料の整理を進める中で確認が終了し登録を終えたものとして、アイヌ語地名の研究で知られる山田秀三氏（1899-1992）旧蔵資料38点について報告する。

本文及び対応する写真図版については1・4・5を亀丸、2・3・6を大坂が担当し、亀丸がとりまとめた。

資料の法量や材質等詳細については、巻末「表1 2020年新規登録資料一覧」を参照されたい。

1 山本尚己氏寄贈資料

(1) 資料収集の経緯

寄贈者である山本尚己氏によると、当該の儀式用刀と刀帯は、山本氏が1990（平成2）～92（平成4）年頃に北海道札幌市を来訪した際、大通付近で開催されていた骨董市で購入したものであるとのこと。

2019（令和元）年9月10日に山本氏より当館に資料を寄贈したい旨の連絡があったことを受けて、同年12月2日に当館小川正人及び非常勤研究職員である佐々木利和が兵庫県神戸市の山本氏宅において資料の調査と収集を行なった。

寄贈資料は骨董品業者を介した入手であり、具体的な

製作者や製作地、年代等の情報を欠いてはいるものの、刀帯については、近年の研究成果に照らし合わせることでおおよその位置付けが可能であることなどから、今後の研究活動等にも重要な資料である。また、当館では既に刀帯や儀式用刀を収蔵しているが、いずれも劣化の激しいものが多く、状態が良好である本資料は展示その中でも活用が可能であり、2019（令和元）年度第9回資料審査会（2020（令和2）年1月29日開催）で受け入れが承認された。資料番号は185647、185648である（図1：1～3）。

(2) 資料の特徴

儀礼用刀（185647）は、アイヌの儀礼用刀としては比較的良好に見られるタイプの製作技法が用いられている。具体的に、鞘と柄に巻かれた桜皮について、鞘に巻かれたものは欠損しているものの、柄に残るものからは巻き留め処理の状態がよく確認でき、古原分類（古原1996）に当てはめると、A-1に該当する。柄は中子をはめ込むための穿孔が柄口まで連続せず、古原分類によるA-1に該当する。

本資料には、金属製刀身の代替として製作された竹製の刀身も付属している。

刀帯（185648）は、大坂分類（大坂2017）のI b5類（肩部が技法A1、胴部が技法B1で製作されるもののうち、肩部が鞣皮、胴部が木綿糸を緯糸とする）に該当する。

(亀丸)

2 大谷洋一氏寄贈資料

(1) 資料収集の経緯

男女一対の夫婦像で、寄贈者の大谷洋一氏によれば、祖父が1970（昭和45）年頃に息子（寄贈者の伯父にあたる）の結婚を祝う贈り物とするため、勇払郡むかわ町穂別仁和（旧穂別町字仁和下）に住んでいた工芸家の山本勇氏に製作を依頼したもので、素材のイヌエンジュは祖父が自身所有の山林で伐採して山本氏の工房に持ち込んだという。

木彫熊や夫婦像はお土産物として流通したものが数多く存在するものの、製作年代や作者等の基礎的な情報を欠いたものも少なくない中であって、本資料は穂別町に居住した作家の作品であることが明確であり、かつ近隣の住民からの依頼によって製作した経緯も明らかな点で貴重である。

以上のことから、令和2年度第1回資料審査会（2020（令和2）年4月23日開催）で受け入れが承認された。資料番号は185783-1、-2である（図2：1～4）。

(2) 資料の特徴

1本のイヌエンジュの木から根本側の部材を男性像、上部の部材を女性像に使用したものと見られる。下面には鉛筆による下書きが一部に残存している。

（大坂）

3 津田命子氏寄贈資料

本資料群は、勇払郡むかわ町に生まれ、北海道ウタリ協会（のちアイヌ協会）の学芸員として伝統的刺繍技術の復元と普及に尽力してきた津田命子氏が、長年講座等で教材として使用していたものである。津田氏の退職に際して旧北海道立アイヌ民族文化研究センターに預けられていたが、このたび津田氏より、北海道博物館で資料として活用することを希望されている旨を伺い、整理に着手した。

津田氏は、資料の綿密な観察と復元製作を組み合わせた技術復元の手法を確立したアイヌ服飾研究の第一人者であり、その知見を数多くの出版物や講座を通じて社会に普及する取り組みを精力的に行ってきた。本資料群は、津田氏のアイヌ民具研究の歩みを示すものとして重要である。本資料は令和2年度第1回資料審査会（2020（令和2）年4月23日開催）で受け入れが承認された。資料番号は185784～185792である（図2：5～8）。

なお、本来は津田氏から製作の経緯や講座での使用方法などについてご教示を得たうえで報告する予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大によってそれが叶わ

なかった。詳細は後日を期すこととしたい。

（大坂）

4 河口知明氏寄贈資料

(1) 資料収集の経緯

寄贈者である広島県在住の河口知明氏によると、写真アルバムは、15年ほど前、旧浅野藩（広島県草津地区）の藩医をつとめた家系から古民家を譲り受けた際に、残されていた家財に含まれていたもので、前所有者が明治期に北海道を旅行した際に入手された可能性が高いということである。

河口氏が資料の扱いについて北海道在住の知人に連絡を取ったことを契機として、千歳市アイヌ政策推進課、千歳市アイヌ協会を通じて2020（令和2）年4月15日に当館へ照会があった。同年5月8日付けであらためて河口氏より当該資料の寄贈希望の連絡を受けたことを踏まえ、令和2年度第2回資料審査会（2020（令和2）年5月20日開催）で受け入れが承認された。資料番号は186079である（図3、4）。

(2) 資料の特徴

厚紙製のアルバムにアイヌ民族を被写体とした7枚の写真が収められており、写真横にはそれぞれの写真についての説明が手書きで記されている。写真の中にはこれまで絵葉書などを通じて広く知られているものもあるが、類例が多くないものも含まれている。撮影地等の詳細情報は見られないが、衣服や映っている民具の特徴から、サハリンアイヌと思われるもの1枚、噴火湾沿岸と思われるもの1枚、その他は北海道の胆振ないしは日高地域で撮影されたものである可能性がある。

なお、写真の中には今日的には被写体となった個人ならびにアイヌ民族の尊厳を侵害すると見られるものが1枚含まれるため（186079-3）、掲載を見送った。

（亀丸）

5 山田秀三氏旧蔵資料

(1) 資料収集の経緯

本資料群は、1994（平成6）年7月に旧北海道立アイヌ民族文化研究センター（以下、旧センター）が受け入れを行なった、アイヌ語地名の研究で知られる山田秀三氏旧蔵資料のうち、アイヌ民具資料に該当するものである。旧センターが資料を受け入れた際、図書や音声・映像資料、写真、文書類に関する目録が「山田秀三文庫」として刊行されたものの、民具類やその他器物類に関しては未整理の状態のまま2015（平成27）年の組織統合

に伴い北海道博物館に引き継がれた。

この未整理資料は、山田氏自らが収集を行なったものであり、既存の「山田秀三文庫」を補完する意義をもつことなどから、令和2年度第6回資料審査会（2020（令和2）年9月24日開催）に諮り、受け入れが承認された。資料数は38点で、対応する資料番号は186083～186109である（図5～10）。

なお、山田秀三氏関連資料として、撮影・録音用機材等の一部も令和2年度2回資料審査会（2020（令和2）年5月20日開催）にて受け入れを行なったが、そのほかにも存在が確認されている未登録の器物類やその他資料とともに次年度以降の紹介を予定している。

一部の資料には、旧センター時代に仮整理を行った際の整理番号が緑色の紐がついたラベルに付されていたため、巻末の一覧表の備考欄に「旧北海道立アイヌ民族文化研究センター整理番号：□□」として記した。

(2) 山田秀三文庫等との関連

山田秀三文庫及び山田氏の著作などとの対応関係や照合作業を進める中で、情報が追加できた資料について、以下に概要を記す。文書資料からの引用を「」で、該当頁を（p.□□）で示した。

山田秀三文庫の中の文書資料『祭器 酒器 アイヌプリ』には、以下に示す4点についての記述がある。

【片口（186104）】：外黒・内朱の漆塗りが施され、注ぎ口の周りに文様がある。片口が写るスナップ写真と共に「静内から出た（静内のアイヌが使っていた）ものと云う（p.7）」、「エトゥヌプ（静内）山田蔵（田村氏から求めた）（p.9）」という記述があり、元々は静内のアイヌが使用した当該の片口を田村氏という人物を介して入手したと見られる。

【椀（186099）・天目台（186102）】：外黒・内朱の漆塗りで、椀の口縁部や天目台の縁には雲流紋、側面には宝尽くし文様のうち金囊、隠れ笠、分銅が宝珠を挟んで配置されている。天目台の上に椀が組み合わされた状態で写真に写り、「トゥキ（酒杯）（p.7）」と記されている。捧酒箸を説明する箇所にも演示具として写真に登場する。「トゥキ（沙流）山田蔵（萱野茂さんから買った）」という記述から、平取町の萱野茂氏より購入したものであることが分かる。

【捧酒箸（186092）】：上記の椀・天目台と共に写真で示されているのが確認できるほか、用途について書き記された箇所でも単体の写真が見られる。日本の古文化や東北のイタコの風習との関連性を示唆する記述が見られるが、入手の経緯等については確認できない。

また、山田秀三氏の著書『アイヌ語地名を歩く』（1986 北海道新聞社）に収録された「萱野茂さんの木彫（上）・（下）」というエッセイには、山田氏がアイヌ文化研究者、工芸家で知られる萱野茂氏（1926－2006）に茶托や捧酒箸の製作を依頼し、それを山田氏の妻が鎌倉彫の塗師に漆塗りを依頼した、などの記述が見られ、山田氏と萱野氏の間でアイヌ民具を介した交流が頻繁にあったことが伺える。

本資料群の茶托（186105－1～5）の底面には「カ（四角囲い）」という刻印があり、上記の山田氏と萱野氏の交流なども踏まえると、萱野氏による製作であることを示す可能性が考えられるが、さらに詳細な検討が必要である。

木材サンプル（186109－1～4）については、ツリバナの木の同一の枝を用いた石斧の使用実験標本と思われるものである。同一の枝を、外皮を付けた状態3本、剥いた状態1本に分割し、それぞれでの実験によって生じた割れや削れ方を示すものとなっており、うち3本にはそれぞれに対し行なった動作を記したラベルが付されている。旧センター時代より山田秀三文庫の受け入れ、整理を行なってきた当館小川正人から、特徴的なラベルの筆致は山田秀三氏と親交の深かった木工家の山岸憲史氏（1926－1989）によるものではないか、との教示を受け、ラベルの筆跡及び資料の写真を妻である山岸由史子氏に見ていただき、山岸憲史氏の製作と判断した。

（亀丸）

6 佐藤華江子氏寄贈資料

(1) 資料収集の経緯

積丹町来岸で運上屋旅館（1954（昭和29）年開業）を営む佐藤華江子氏から寄贈された脚絆2点、前掛け1点で、佐藤氏が物心ついた時には既に、多くの関連資料とともに家にあったという。

アイヌ民族の伝統的な衣類は現在に至るまで製作され続けているものの、北海道南西部日本海沿岸部に伝わったことが明確な資料は極めて少なく、積丹町内に限れば、他に東京国立博物館所蔵の木綿衣1点が知られるに過ぎない。そうした中であって、鯨漁を営んだ有力漁業者の縁戚にあたる家に古くから伝わったことが明確な本資料群は極めて貴重なものと言える。

運上屋旅館にアイヌ民具資料が保管されているという情報をもとに、2020（令和2）年11月1日に当館小川正人、大坂、亀丸、及び旧北海道立アイヌ民族文化研究センター職員古原敏弘の4名で訪問して調査した際に、佐藤氏より、資料をより良い状態で保管し展示等に役立て

て欲しいとの希望が示されたことを受け、令和2年度第8回資料審査会（2020（令和2）年11月25日開催）に諮り受け入れが承認された。資料番号は186110～186112である（図11：1～7）。

(2) 資料の特徴

脚絆（186110）の上半部は厚手の縞木綿を裏地とし、紺木綿で覆った後、チェーンステッチで文様を施しており、下半部は厚手の紺木綿を二重にしている。後部は縫い合わせて筒型となっている。脚絆（186111）は、紺の縞木綿を裏地とし、全体を紺木綿で覆った後、チェーンステッチで文様を施したもので、コハゼ6枚が付属する。いずれも一部に軽度の虫損が認められる。

前掛け（186112）は浅葱色の木綿布の裏地に紺木綿をあわせ、中央部には緻密な刺子で菱形文を施し、周縁部にはコーチングステッチで文様を施している。やや大きな虫損が認められる。

（大坂）

謝辞

資料をご寄贈くださった方々と、本稿をまとめるにあたりご教示を賜りました小川正人氏、古原敏弘氏、佐々木利和氏、山岸由史子氏（五十音順）の多大なご協力に感謝し、末筆ながら心よりお礼申し上げます。

参考文献

- 大坂拓 2017. アイヌ民族の刀帯一分類群の共時的分布と通時的変化一. 北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要 2: 1-32.
- 萱野茂 1996. 萱野茂のアイヌ語辞典. 三省堂.
- 古原敏弘 1996. エムシについて—とくに鞘と柄の製作技術について. 北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要 2: 149-157.
- 青花の会 2019. 1 三人とアイヌ. 工芸青花 12. 新潮社.
- 田村すず子 1996. アイヌ語沙流方言辞典. 草風館.
- 北海道立アイヌ民族文化研究センター 2000. 山田秀三文庫 文書資料目録 I. 北海道立アイヌ民族文化研究センター資料目録 4.
- 山田秀三 1986. アイヌ語地名を歩く. 北海道新聞社.



1 資料番号 185647 ①



2 資料番号 185647 ②柄に巻かれた桜皮



3 資料番号 185648

図1 山本尚己氏寄贈資料



1 資料番号 185783 ①正面 (左から 185783-1、-2)



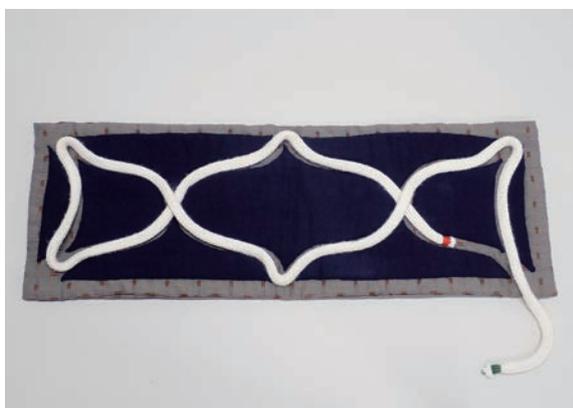
2 資料番号 185783 ②背面 (左から 185783-1、-2)



3 資料番号 185783-1 下面



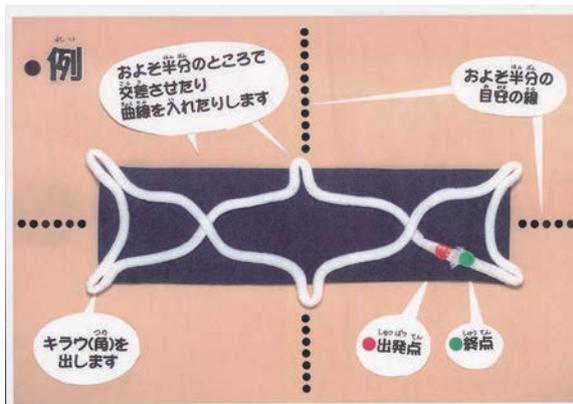
4 資料番号 185783-2 下面



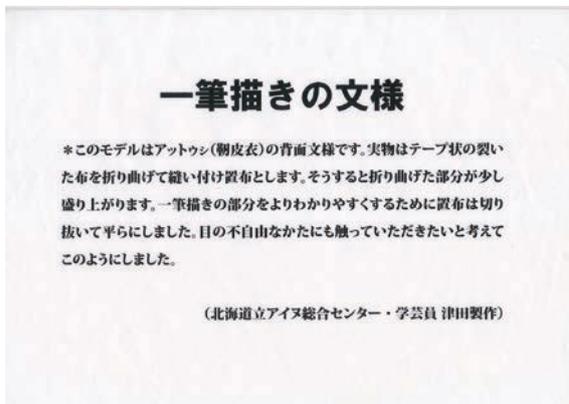
5 資料番号 185791



6 資料番号 185790

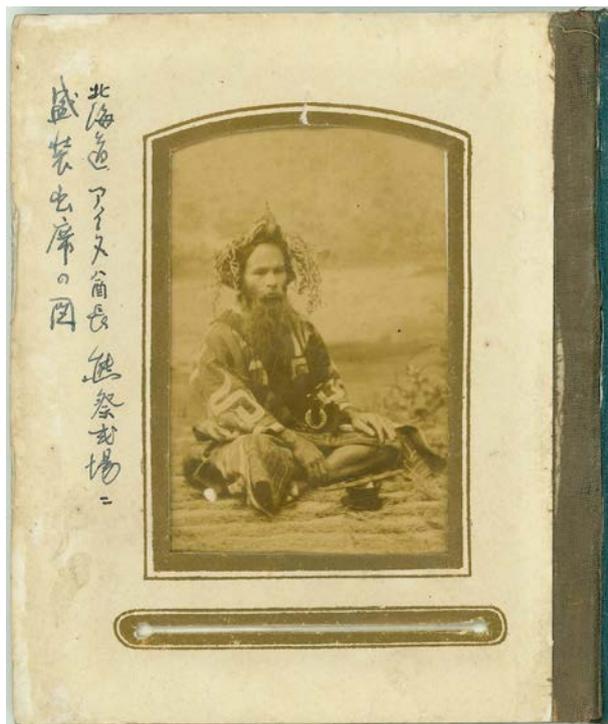


7 資料番号 185792-1

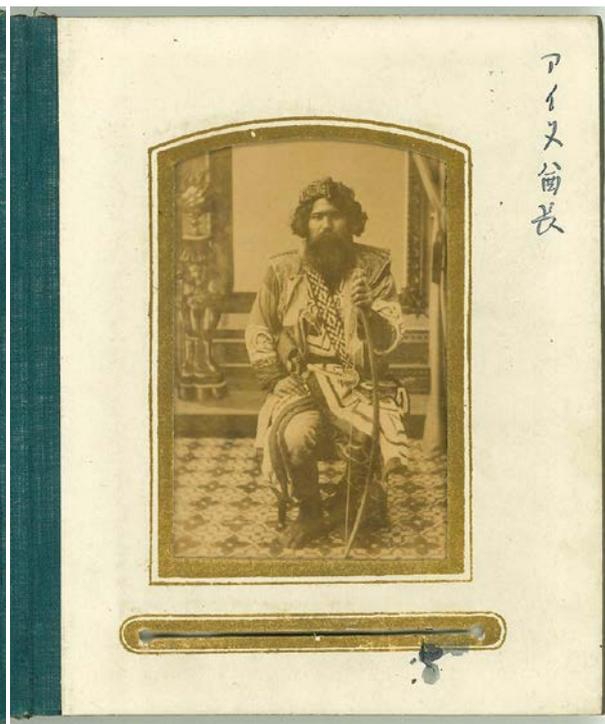


8 資料番号 185792-2

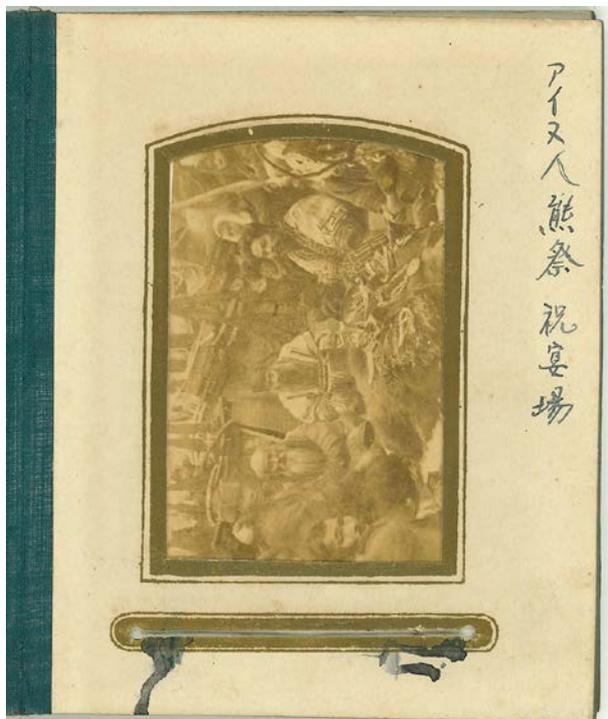
図2 大谷洋一氏寄贈資料及び津田命子氏寄贈資料



1 資料番号 186079-1



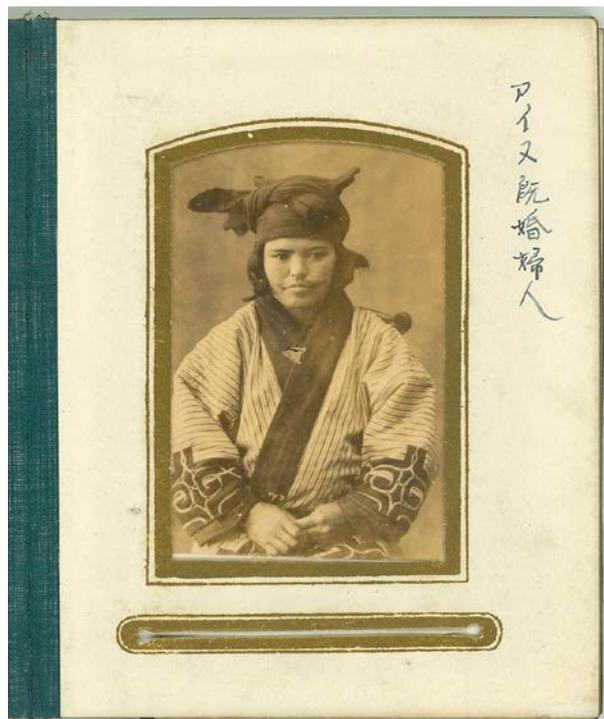
2 資料番号 186079-2



3 資料番号 186079-4



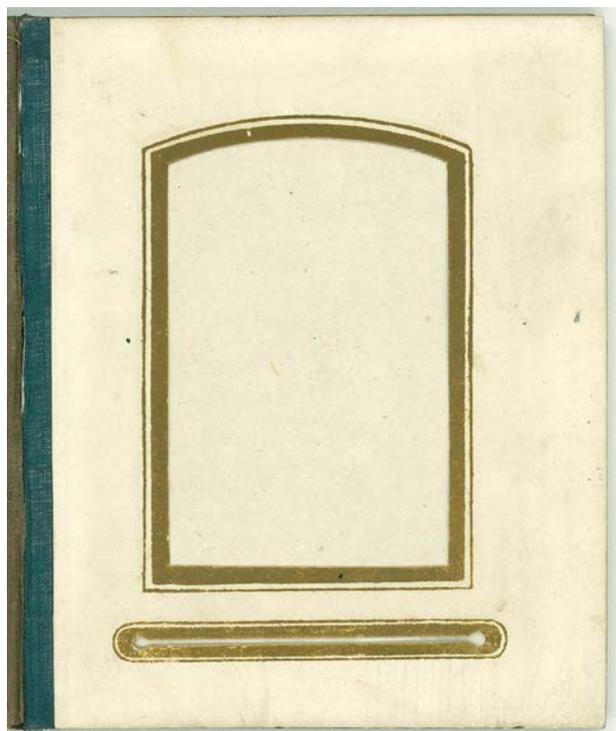
4 資料番号 186079-5



1 資料番号 186079-6



2 資料番号 186079-7



3 資料番号 186079 (裏表紙)



4 資料番号 186079 (背表紙)



1 資料番号 186083 ①表



2 資料番号 186083 ②裏



3 資料番号 186084 ①表



4 資料番号 186084 ②裏



5 資料番号 186085 ①表



6 資料番号 186085 ②内部



7 資料番号 186085 ③裏

図5 山田秀三氏旧蔵資料①



1 資料番号 186086①



2 資料番号 186086②



3 資料番号 (上から) 186087~186092 ①表



4 資料番号 (上から) 186087~186092 ②裏



5 資料番号 186090 裏面刻印拡大 (左から上部、中部、下部)



6 資料番号 186092 拡大 (上から表、裏)



7 資料番号 (上から) 186093~186098 表①



8 資料番号 (上から) 186093~186098 裏②

図6 山田秀三氏旧蔵資料②



1 資料番号 186099 ①側面文様 - 金囊



2 資料番号 186099 ②側面文様 - 隠れ笠



3 資料番号 186099 ③側面文様 - 分銅



4 資料番号 186100 ①側面



5 資料番号 186100 ②底面



6 資料番号 186101 ①側面



7 資料番号 186101 ②底面



8 資料番号 186102 ①側面



9 資料番号 186102 ②上面



10 資料番号 186102 ③底面

図7 山田秀三氏旧蔵資料③



1 資料番号 186103 ①側面



2 資料番号 186103 ②底面



3 資料番号 186103 ③底面拡大



4 資料番号 186104 ①



5 資料番号 186104 ②文様拡大



6 資料番号 186105 ①表面



7 資料番号 186105 ②裏面



8 資料番号 186105 ③表面拡大



9 資料番号 186105 ④裏面拡大

図8 山田秀三氏旧蔵資料④



1 資料番号 186106



2 資料番号 186106-1



3 資料番号 186106-3



4 資料番号 186107 ①上面



5 資料番号 186107 ②底面



6 資料番号 186107 ③底面刻字拡大



7 資料番号 186107 ④底面貼付シール



8 資料番号 186108

図9 山田秀三氏旧蔵資料⑤



1 資料番号 186109 ①(左から 186109-1、-2、-3、-4)



2 資料番号 186109 ②上部のようす



3 資料番号 186109-1



4 資料番号 186109-2



5 資料番号 186109-3



6 資料番号 186109-4

図10 山田秀三氏旧蔵資料⑥



1 資料番号 186110



2 資料番号 186111①



3 資料番号 186111②



4 資料番号 186111③



5 資料番号 186112①



6 資料番号 186112②中央部刺子の拡大



7 資料番号 186112③周縁部のコーチングステッチ

表1 2020年度新規登録資料一覧

収蔵番号	資料名	説明
185647	儀式用刀	鞘：53.0×4.2×1.7、刀身：56.5×3.0×0.7、つば：8.5×8.4×0.8 切羽：4.0×2.4×0.1、柄：20.5×3.5×2.0、竹製刀身：40.0×1.6×0.7
185648	刀帯	73.0×53.0cm
185783-1	木彫りの夫婦像（男性像）	9.6×24.5cm、材：イヌエンジュ、山本勇氏製作
185783-2	木彫りの夫婦像（女性像）	9.4×24.2cm、材：イヌエンジュ、山本勇氏製作
185784	刺繍技法見本	チェーンステッチ他の見本板6種を一つにまとめてある。それぞれに解説が付される。
185785	ゴザ編機模型	編み途中のゴザ付属
185786	仕掛弓模型	台、弓、クマ形板、人形板、矢のセット
185787	うなり木	185788と組
185788	講座資料	「ボール紙で作るレラスイェプ」2枚一組×7セット
185789	木綿製バッグ	一筆書きの見本（7・8・9）を取める
185790	刺繍構図見本	「一筆書きの文様」の見本として製作された着物背面の複製
185791	刺繍構図見本	「一筆書きの文様」の見本として製作された、構図1単位の複製
185792	解説シート	「一筆書きの文様」を説明するシート4枚組、185790・185791と組
186079	写真アルバム	14.0×11.5×1.2cm、厚紙製の台紙で製本されたアルバムの8頁中7頁に写真が挿入されている。 写真横には手書きの説明あり
186083	盆	35.0×45.0×2.0cm、材カツラ、横中央が芯側、表面が芯の内側を向くように面取り、表面に 摩耗やキズなど使用痕あり
186084	ゴザ	20.0×33.0cm、材ガマ・シナ（染料使用か）・木綿糸
186085	針入れ	18.0×3.0cm、赤フェルト・木綿糸（青色）、まち針1本付、文様の縁に沿って青色着色、収 納用箱付
186086	小刀	24.0×5.0cm（鞘+柄）、21.0cm（柄+刀身）、12.0cm（刀身）、材：クルミ、下げ紐シナ、 鞘：一木くり抜き、刀身はめ込み
186087	捧酒箸	35.5×4.0cm、漆塗り、裏面一部ハゲあり
186088	捧酒箸	31.5×2.2cm、漆塗り
186089	捧酒箸	31.5×2.0cm、漆塗り
186090	捧酒箸	32.5×3.2cm、裏面に「リケタフカ（ヤマ）ワ（屋号）ノヤ」と記載あり
186091	捧酒箸	35.0×2.9cm
186092	捧酒箸	30.0×2.3cm
186093	捧酒箸	33.5×3.0cm、材：イチイ
186094	捧酒箸	32.5×3.2cm、材：カツラ、使用痕あり
186095	捧酒箸	33.0×3.0cm、材：カツラ
186096	捧酒箸	31.5×2.8cm、材：カツラ
186097	捧酒箸	32.5×2.5cm、材：クルミ
186098	捧酒箸	34.0×3.0cm、材：クルミ
186099	椀	径12.4×高7.0cm、漆塗り（外黒・内朱）、口縁部に雲流紋、側面には宝尽くし文様のうち金 囊、隠れ笠、分銅が宝珠を挟んで配置、天目台（186102）と共に萱野茂より購入
186100	椀	径13.5×高8.5cm、無文、漆塗り（外朱・内黒）、底面に祖印あり

収集年	収集地	収集者	図版番号	備考
1990～1992年頃	札幌市	山本尚己	図1：1～2	古原分類（古原 1996）のA-1技法を用いた製作
1990～1992年頃	札幌市	山本尚己	図1：3	大坂分類（大坂 2017）の1 b5類に該当
2020年	札幌市		図2：1～3	
2020年	札幌市		図2：1～2、4	
2020年	札幌市			
2020年	札幌市		図2：6	
2020年	札幌市		図2：5	
2020年	札幌市		図2：7・8	
		河口知明	図3、4	
		山田秀三	図5：1～2	
		山田秀三	図5：3～4	[旧北海道立アイヌ民族文化研究センター整理番号：1024]
		山田秀三	図5：5～7	[同上：1038]
		山田秀三	図6：1～2	[同上：1013]
		山田秀三	図6：3～4	[同上：1001]
		山田秀三	図6：3～4	[同上：1002]
		山田秀三	図6：3～4	[同上：1003]
		山田秀三	図6：3～5	[同上：1004]
		山田秀三	図6：3～4	[同上：1005]
		山田秀三	図6：3～4、6	[同上：1006]
		山田秀三	図6：7～8	[同上：1007]
		山田秀三	図6：7～8	[同上：1008]
		山田秀三	図6：7～8	[同上：1009]
		山田秀三	図6：7～8	[同上：1010]
		山田秀三	図6：7～8	[同上：1011]
		山田秀三	図6：7～8	[同上：1012]
		山田秀三	図7：1～3	山田文庫の中の文書資料『祭器 酒器 アイヌプリ』に関連する記述あり、[同上：1014]
		山田秀三	図7：4～5	[同上：1015]

収蔵番号	資料名	説明
186101	椀	径13.8×高7.5cm、無文、漆塗り（朱）、底面に「悦（悦）」の塗りあり
186102	天目台	径14.5×高10.0cm、漆塗り（黒）、漆の剥落、一部割れあり、裏面には祖印と思われるものあり、同一の文様を示す椀（186099）と共に萱野茂より購入
186103	天目台	径14.5×高9.0cm、漆塗り（朱）、裏面一部に金の着色が残る
186104	片口	径21.5×高14.5cm、漆塗り（外黒・内朱）、注ぎ口の周りに文様あり
186105-1	茶托	13.5×13.5×1.0cm、漆塗り、5枚1セット、四隅のうち一つに文様あり、裏面に「カ（四角囲い）」の刻印あり
186105-2	茶托	13.5×13.5×1.0cm、漆塗り、5枚1セット、四隅のうち一つに文様あり、裏面に「カ（四角囲い）」の刻印あり
186105-3	茶托	13.5×13.5×1.0cm、漆塗り、5枚1セット、四隅のうち一つに文様あり、裏面に「カ（四角囲い）」の刻印あり
186105-4	茶托	13.5×13.5×1.0cm、漆塗り、5枚1セット、四隅のうち一つに文様あり、裏面に「カ（四角囲い）」の刻印あり
186105-5	茶托	13.5×13.5×1.0cm、漆塗り、5枚1セット、四隅のうち一つに文様あり、裏面に「カ（四角囲い）」の刻印あり
186106-1	器	26.5×17.2×7.2cm、材：イヌエンジュ、5つセット
186106-2	器	28.0×17.7×6.5cm、材：イヌエンジュ、5つセット
186106-3	器	28.5×17.3×7.3cm、材：イヌエンジュ、5つセット
186106-4	器	28.0×18.0×6.5cm、材：イヌエンジュ、5つセット
186106-5	器	28.0×17.5×6.4cm、材：イヌエンジュ、5つセット
186107	器	33.5×21.4×10.4cm、底面に「二風谷民芸 日高平取」の彫文、「北海道推奨」シールあり
186108	器	46.0×25.0×9.0cm、材：カツラ
186109-1	木材サンプル	14.5×4.3cm、材：ツリバナ、石斧の使用実験か。手書きで「手もちで16分かかりました」の紙ラベルあり、山岸憲史氏製作
186109-2	木材サンプル	17.5×3.7cm、材：ツリバナ、石斧の使用実験か。両端のうち片方が円錐状に削られている、山岸憲史氏製作
186109-3	木材サンプル	11.0×3.6cm、材：ツリバナ、石斧の使用実験か。手書きで「4回ほど叩きました」の紙ラベルあり、山岸憲史氏製作
186109-4	木材サンプル	11.4×4.1cm、材：ツリバナ、石斧の使用実験か。表皮を剥いた状態、手書きで「1回でわれました」の紙ラベルあり、山岸憲史氏製作
186110	脚絆	①16.5×29.5cm、②17×29.8cm、一対、縫い合わせて筒型にするタイプ、軽度の虫損
186111	脚絆	①41.5×31cm、②42×33cm、一対、コハゼで留めるタイプ、軽度の虫損
186112	前掛	本体39×69cm、腰紐228cm、重度の虫損

収集年	収集地	収集者	図版番号	備考
		山田秀三	図7：6～7	[同上：1016]
		山田秀三	図7：8～10	山田文庫の中の文書資料『祭器 酒器 アイヌプリ』に関連する記述あり
		山田秀三	図8：1～3	
		山田秀三	図8：4～5	山田文庫の中の文書資料『祭器 酒器 アイヌプリ』に関連する記述あり
		山田秀三	図8：6～9	「萱野茂さんの木彫（上）」（山田 1986:126-127）に関連する記述あり
		山田秀三	図8：6～9	「萱野茂さんの木彫（上）」（山田 1986:126-127）に関連する記述あり
		山田秀三	図8：6～9	「萱野茂さんの木彫（上）」（山田 1986:126-127）に関連する記述あり
		山田秀三	図8：6～9	「萱野茂さんの木彫（上）」（山田 1986:126-127）に関連する記述あり
		山田秀三	図8：6～9	「萱野茂さんの木彫（上）」（山田 1986:126-127）に関連する記述あり
		山田秀三	図9：1～2	[旧北海道立アイヌ民族文化研究センター整理番号：1020]
		山田秀三	図9：1～2	[旧北海道立アイヌ民族文化研究センター整理番号：1019]
		山田秀三	図9：1、3	[旧北海道立アイヌ民族文化研究センター整理番号：1018]
		山田秀三	図9：1、3	[旧北海道立アイヌ民族文化研究センター整理番号：1021]
		山田秀三	図9：1、3	[旧北海道立アイヌ民族文化研究センター整理番号：1017]
		山田秀三	図9：4～7	[旧北海道立アイヌ民族文化研究センター整理番号：1022]
		山田秀三	図9：8	[同上：1023]
	札幌市	山田秀三	図10：1、3	186109-1～4は同一の技
	札幌市	山田秀三	図10：1、4	186109-1～4は同一の技
	札幌市	山田秀三	図10：1、5	ラベルは、北海道三菱ショールーム（さっぽろ中央区北2西4（北海道ビル））のメモ用紙ウラに記載、186109-1～4は同一の技
	札幌市	山田秀三	図10：1、6	186109-1～4は同一の技
2020年	積丹町		図11：1	
2020年	積丹町		図11：2～4	
2020年	積丹町		図11：5～7	

Introduction of Objects Entering Museum Collection during 2020 Fiscal Year:

Including Ainu Folkcraft Articles
and Other Materials from the Former YAMADA Hidezo Collection

KAMEMARU Yukiko and OSAKA Taku

From the end of the 2019 (Reiwa year 1) fiscal year to the end of November 2020 (Reiwa year 2), the Hokkaido Museum Ainu Culture Research Center has received five donations of folkcraft articles including 18 items. Ongoing confirmation and cataloguing of unregistered folkcraft articles stored

at the museum has been completed for 38 items from the former collection of YAMADA Hidezo (1899-1992), a scholar renowned for his research on Ainu place names. This paper reports on these new entries to the museum collection.